

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】 重点プロジェクト〔次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト〕
～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

令和5年2月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～	
2. 河西農業士会視察研修会を開催	
II 那賀振興局	3-5
1. 兵庫県丹波市へ県外研修を実施 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
2. 「匠の技 伝道師」による果樹苗生産研修会	
3. 児童考案による地場産農産物を使った給食が提供される ～児童と生産者交流会を実施～	
III 伊都振興局	6-8
1. 新規就農者研修会（夏野菜研修会）を開催	
2. 橋本市生活研究グループ連絡協議会が先進地研修を開催	
3. 橋本市生活研究グループ連絡協議会が「食品と栄養の移動教室」を開催	
4. 高野山麓精進野菜栽培講習会の開催	
5. 伊都地方農業振興協議会がたまねぎ栽培現地研修会を開催	
IV 有田振興局	9-10
1. J Aありだ蔬菜部会ししとう部門役員会で GAP 研修会を開催	
2. 有田コープファーム 2023 年防除暦作成検討会	
3. 宮原共選組合で研修会を開催	
4. 第 2 回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催	
V 日高振興局	11-14
1. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会を開催	
2. 「匠」の技術伝承事業に係るゆら早生せん定講習会開催	
3. 令和 4 年度「農トレ！ひだか」～第 3 回セミナー開催～	
4. 将来へ前向きに・・・高校 3 年生へ花束を配布	
VI 西牟婁振興局	15-16
1. アグリビギナー等技術経営研修を開催	
2. 令和 4 年度西牟婁地方農山漁村女性の日のつどいを開催	

Ⅶ 東牟婁振興局	17
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～いちごハダニ類の天敵防除実証ほ調査結果～	
Ⅷ 農林大学校	18
1. 卒業論文発表会を開催	
2. 令和4年度農学部卒業式	
Ⅸ 就農支援センター	19-20
1. 技術修得研修（第2班）の営農計画発表会／閉講式	
2. 令和4年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了	
3. 第3回UIターン就農相談フェアを開催しました	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「匠の技 伝道師」による研修会を開催～

2月27日、海南省下津町内の温州みかん園地にて「匠の技 伝道師」の橋詰 孝氏による本年度3回目の研修会を開催。温州みかんを栽培している新規就農者や農業士ら18名の参加があった。

研修会では農業水産振興課の萩平普及指導員から今回の研修目的を説明したあと、橋詰氏からこれまでの気象状況や樹の生育状況について説明が行われ、受講者は熱心に聞き入った。

橋詰氏の園地では毎年安定した着果量が確保されている。橋詰氏からは、「隔年結果がなくなれば毎年安定して10aあたり5t収穫できるようになる。そのためには肥培管理とせん定が大切。売上の3割は肥料に回し、花芽をつけること。今年のせん定は表年の樹から始めること。花芽ではなく芽を毎年出させるつもりでせん定すれば、隔年結果はしない。樹形を整える際には、東西南北で枝の伸び方が異なるので、それに合わせたせん定をすること」との助言もあった。

今後も「匠の技 伝道師」の技術を若手農業者等へつなげる活動を行っていく。



熱心に質問する受講生



樹体を前に説明(表年の樹のせん定)

2. 河西農業士会視察研修会を開催

2月28日、河西農業士会では、施設園芸の先進的な取組を学ぶため、御坊市にある大藪農園（園主：大藪和晃氏）と県農業試験場暖地園芸センターで視察研修会を開催した。研修会には、会員8名と農業水産振興課職員1名が参加した。

大藪農園は、ミニトマトの施設栽培を行っており、環境制御システムの導入や走行式ロボット防除機、高所作業車による作業の効率化が図られていた。会員らは、機材の性能や販売方法など積極的に質問していた。

暖地園芸センターでは、上山所長からセンターの概要と研究内容について、説明を

受けた後、センター内のハウスを見学した。試験ハウスの見学では、田中主査研究員からミニトマトの環境制御について、各機材と仕組みの説明を受けた。

今回の研修では、施設栽培における環境制御技術の習得とともに、大藪氏の栽培施設、特にハウスの構造やサイドの自動巻き上げ機などに関心が集まっていた。

当課では、今後も研修会の開催など、会の活動を支援していく。



施設ミニトマトの取り組みを学ぶ
(大藪農園)



試験研究状況についての説明
(暖地園芸センター)

Ⅱ 那賀振興局

1. 兵庫県丹波市へ県外研修を実施 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

2月3日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）は、兵庫県丹波市においてオーガニックビレッジの先進地研修を実施し、会員 21 名が参加した。

午前中は丹波市市島町内にある堆肥施設「市島有機センター」を訪問。施設内を見学し堆肥製造までの流れや、製造した堆肥を購入者の指定するほ場に搬送、散布するシステムについて説明を受けた。グループ員は製造工程、販売手続きや申請費用などについて熱心に質問を行った。

午後は丹波市役所春日支所において、市職員や丹波市有機農業研究会から、丹波市で行われているオーガニックビレッジ活動について説明を受けた後、丹波市有機農業研究会のほ場まで移動し、現在作付けしている野菜や施設について説明を受けた。

また、生産する有機野菜の基準が、「有機栽培だから虫食いでも仕方がない」から「見た目は良いのが当たり前、高品質・高栄養価の生産物を作る」へと変化した経緯を聞くことができた。それぞれの説明に対し活発な質疑応答が行われ、大変有意義な研修であった。

農業水産振興課では、今後も会員らによるグループの自主的な取組を支援していく。



堆肥施設見学の様子



研修会の様子

2. 「匠の技 伝道師」による果樹苗生産研修会

紀の川市の小坂憲史郎氏は、県や国の育成品種の育成許諾を受けたウイルスフリーな果樹苗の生産や、挿し木における水分の適正管理により高い発根率を実現した効率的な苗木生産技術などが評価され、6月30日に知事から「匠の技 伝道師」として認定されている。

2月9日、紀の川市内の小坂氏の作業場において、果樹苗生産についての研修会を開催し、果樹苗の接ぎ木をはじめとした技術の習得をめざす農業者ら 11 名が参加した。

小坂氏からは、パワーポイントを使ってこれまでの自身の歩みを振り返り、自身の

経営概況や果樹苗の生産にかける熱い思いが語られた。

その後、果樹苗を生産している現場を見学。かきの作業現場では、従業員から台木にナイフを入れるときの力の入れ具合や、接合部分を保護するテープの巻き方について実演を交えて説明があり、各自慣れないナイフを片手に悪戦苦闘しながら接ぎ木の実習を行った。

参加者からは「テープはどのくらい引っ張ったらいいのか」や「プロの接ぎ木の成功率は」の声が聞かれた。

今回の研修会は落葉果樹の接ぎ木の時期であったことから、常緑果樹の接ぎ木の時期である初夏以降での開催も検討していく。



研修の様子

3. 児童考案による地場産農産物を使った給食が提供される ～児童と生産者交流会を実施～

2月13日、紀の川市立安楽川小学校の6年生が考案したメニューが給食センターを通じ市内の学校に提供された。

児童達が地域農業への理解と関心を深めるとともに、学校給食への地元食材の利用を推進することを目的とした本取り組みは、小学校、給食センター、農業者団体（紀の川市環境保全型農業グループ）、紀の川市、当課が連携して今年度から開始したもので、児童は11月に地場産農産物について学習し、それを使った給食を考案。今回給食にキャベツやはくさい、ほうれんそう、にんじん等地場産野菜を使ったスープと和え物が採用された。

当日は、11月の出前授業で講師を務めた生産者2名も出席し、児童と生産者の交流会として行われた。現在学校ではコロナ対策として黙食が指導されているため、食事の時間はオンライン形式で生産者のみの発言となったが、食後は児童が生産者のいる別室を訪れ、来校のお礼や給食の感想などを伝えた。

給食を食べた児童からは、「スープに野菜の甘みが出ていて、とてもおいしかった」

「また自分達で考えた給食を食べてみたい」「栄養バランスのとれた食事を考えるのが難しいと気づいた」といった声が聞かれ、地場産農産物や日頃食べている給食について改めて考えるきっかけとなった。

参加した生産者からは、「この取り組みが今回限りではなく、学校数が増え、またその地域の農家が協力することで、より広がりのある活動になってほしい」との意見が出された。

当課では、本取組が来年度以降も継続的に行えるよう、関係機関と連携していく。



給食風景



地場産農産物を使った給食
(中央：和え物、右：スープ)

Ⅲ 伊都振興局

1. 新規就農者研修会（夏野菜研修会）を開催

2月21日、農業水産振興課では、新規就農者の技術・経営力向上と相互交流を図るため、夏野菜についての新規就農者研修会を開催し、6名が受講した。

最初に受講者一人一人が栽培品目、今後栽培したい品目などについての自己紹介を行い、その後久保普及指導員が、なすやトマト、きゅうりなどの栽培管理、主要病虫害防除等のポイントについて講義を行った。受講者からは、なすの定植時期やトマトの水管理、化成肥料と有機質肥料の違いについての質問などがあった。

当課では、今後とも新規就農者の技術・経営力の向上を目的とした研修を行っていくとともに、相互の交流を深めるための支援を行っていく。



研修会の様子

2. 橋本市生活研究グループ連絡協議会が先進地研修を開催

2月7日、橋本市生活研究グループ連絡協議会（会長：栗林照代氏）が自己研鑽と会員相互の親睦を図るために、有田地域の株式会社早和果樹園とJAありだ直売所「ありだっこ」、有田箕島漁協直売所「浜のうたせ」で先進地研修会を開催し、13名の参加があった。

早和果樹園では、秋竹社長から会社概要や6次産業の取り組みについて説明を受けた後、温州みかんの加工場を見学した。会員からは温州みかんの搾汁方法についての質問があった。また、直売所2カ所については有田地域の農産物や加工品の販売状況について調査を行った。

当課では、会員間の交流を活発にし、連携を強め、先進事例からそれぞれの経営の参考となる研修の実施を支援していく。



秋竹社長による説明（早和果樹園）



加工場見学（早和果樹園）

3. 橋本市生活研究グループ連絡協議会が「食品と栄養の移動教室」を開催

2月28日、農村女性の家において、橋本市生活研究グループ連絡協議会（会長：栗林 照代氏）が、多種多様な流通している加工食品について新たな情報を学び、食と栄養の知識を身につけるため、食品と栄養の移動教室を開催し、20名の参加があった。

はじめに、栗林会長から挨拶及び実施する料理についての説明を行ったのち、スパゲッティとホットケーキミックスを使用した料理をそれぞれ1品、即席めんを使用した料理を2品調理した。

完成後は使用した製品についての学習と料理の試食を行い、料理や製品についての意見交換を行った。会員からは、普段使用する小麦粉製品と今回使用した製品との香りの違いについて、今回の料理の改善点などについて意見がでた。

当課では、今後ともグループの取組を支援していく。



調理実習



意見交換

4. 高野山麓精進野菜栽培講習会の開催

2月22日、橋本市役所において高野山麓精進野菜栽培講習会を開催し、新規栽培希望者12名が参加した。はじめに、橋本市農林振興課岡本課長補佐から高野山麓精進野菜の定義やコンセプトについて説明があり、続いて、当課久保普及指導員から栽培方法や農薬肥料の基準について説明を行った。

参加者からは「出荷するには下限面積はあるのか」、「決められた品種はあるのか」等の質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



栽培講習会

5. 伊都地方農業振興協議会がたまねぎ栽培現地研修会を開催

2月27日、伊都地方農業振興協議会（市町、JA、NOSA I、振興局で構成）では、みどりの食料システム戦略に係る持続可能な栽培技術を推進するため、かつらぎ町のたまねぎ栽培園において、栽培現地研修会を開催し、生産者と関係職員併せて13名が参加した。

はじめに、JA紀北かわかみ営農販売部北本副部長から、伊都管内の業務用たまねぎ栽培における播種、育苗、定植、防除、収穫のポイントについて説明があり、続いて当課の間佐古普及指導員から、みどりの食料システム戦略の概要、実証中の生分解性マルチや有機配合肥料の概要等を紹介した。

参加者からは、たまねぎの生育状況をみながらの管理ポイントや生分解性マルチの価格と強度についての質問があった。

今後も、たまねぎの生育状況、雑草の抑制状況、マルチの強度等について調査や比較検討を行い生産者に情報提供する予定である。



たまねぎの実証展示ほ場



現地研修会

IV 有田振興局

1. JA ありだ蔬菜部会ししとう部門役員会で GAP 研修会を開催

2月3日、JAありだ金屋営農センターにおいて、JAありだ蔬菜部会ししとう部門（部門長：宮崎正嗣氏）役員に対し、GAP研修会を開催した。

まず、GAPの目的や意義についての説明を行い、その後、出席者にGAP理解度調査アンケートに取り組んでもらい、その後、アンケートを基に具体的な農作業の点検項目やリスク管理手法について解説を行った。

出席者からは「改めて説明を受けることで、日々の農作業の中でチェックする項目の目的や意義が理解できた。日々の作業について、見直しや改善を繰り返していきたい」等の意見があった。

次回はししとう部門の会員全員が集まる総会等の場で研修を行う予定であり、当課では今後も関係機関と連携しながら啓発活動に取り組んでいく。



理解度調査アンケートに取り組む出席者

2. 有田コープファーム 2023 年防除暦作成検討会

2月9日に有田コープファーム出荷者役員、果樹試験場研究員、JAありだ担当者、当課小山普及指導員が有田コープファーム会議室で2023年の温州みかんの防除暦を検討した。

今年度は、有田コープファーム防除合理化協議会（構成員：有田コープファーム及びコープファーム出荷者、果樹試験場、有田振興局）がグリーンな栽培体系へのサポート事業で取り組んだ「ジマンダイセン水和剤400倍にアビオンE1,500倍を加用散布することで薬剤の耐雨性・残効性が増すことの実証試験」の結果と過去の果樹試験場での試験結果から、散布後30日以内であれば累積降雨量500mm程度まで高い効果を維持でき追加散布は不要と判断し防除暦に盛り込むことができた。

出荷者役員から、現状では累積降雨量200mm程度で追加散布していたが、これを省略でき労力削減につながるとの意見があった。

当課では、今後も生産者団体の取組を支援していく。



検討会の様子

3. 宮原共選組合で研修会を開催

当課では、宮原共選組合員の基礎的な技術を学ぶ機会が少なかった兼業農家の女性農業者や定年帰農者を対象として、1年間を通じた研修会を開催している。

2月12日、宮原共選選果場において研修会を開催し、8名の出席があった。

今回の課題は「カンキツの新品種紹介」で、有望品種6種類（温州みかん2品種、中晩柑4品種）の紹介と試食を行った。温州みかんは「あおさん」、中晩柑では「あすみ」が人気で、「じょうのう膜が薄い」、「糖酸のバランスが良い」などの意見があった。

次回は3月にせんだい講習会を開催する予定である。



新品種の試食

4. 第2回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

2月15日、当課は、有田管内の女性農業者及び就農して間もない農業者が、農業に関する知識や技術の向上と交流を図ることを目的とした「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」を、有田振興局で開催し25名が参加した。

研修会では、「楽しいみかん作り」と題し、和歌山県「匠の技 伝道師」である佐原洋一氏が自身の経営について講演を行うとともに、情報提供として、当課城村普及指導員から温州みかんの外観選別装置、農業用アシストスーツの紹介と柑橘類の有望品種紹介を行った。

アシストスーツについては参加者による試着を行い、有望品種については試食を行った。農業経験が豊富な佐原氏には、栽培技術や農業経営について多くの質問が飛び交った。

当課では、今後も有田農業女子プロジェクト・アグリビギナーの研修会及び意見交換会開催を通じ、有田地域の農業者の育成を図っていく。



佐原洋一氏による講演



情報提供「柑橘有望品種紹介」、「アシストスーツ紹介」



V 日高振興局

1. 日高地方農業士会女性部会先進地研修会を開催

2月7日、日高地方農業士会女性部会（部会長：菊地晴美氏）では、女性の農業士相互の研さんと親睦を図るため、先進地研修を実施した。新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となり、10名の参加があった。

今回は兵庫県加西市の兵庫県立フラワーセンターと兵庫ネクストファームで研修を行った。

フラワーセンターでは主に大温室にある熱帯、亜熱帯の花や食虫植物、バナナなどを見学した。参加者たちは珍しい植物を見ながら、興味深く説明を聞いていた。

また、兵庫ネクストファームでは3.6haの広大なハウスの中で1年を通して中玉トマトとミニトマトが栽培されており、AIを使って生育環境を制御し、安定した生産量と品質の高いトマトを生産している。参加者の中にはトマトを生産している農家もあり、熱心に質問していた。

来年度も農業士の資質向上や活躍の場を広げる取り組みを支援していく。



フラワーセンター



兵庫ネクストファーム

2. 「匠」の技術伝承事業に係るゆら早生せん定講習会開催

2月17日、当課は、日高川町のゆら早生栽培園地において、高品質多収技術を習得するため、「匠の技伝道師」に認定された塚本 亨氏の指導で、せん定講習会を開催した。当日は新規就農者、日高地方農業士会員、JA紀州果樹部会員等、43名の参加があった。

研修会では、「主枝、亜主枝、側枝を明確に配置し、それぞれの枝に強弱をつけ、せん定しすぎないこと」「切りたい枝の切り口が太くなる場合、一気に切らずに数年かけて徐々に切り詰めていくこと」など、せん定のポイントが説明された。その後、せん定の実演があり、手際の良いノコギリさばきに感嘆の声が上がっていた。また、参加者は自身の樹の状態とを比較し、せん定の方法を考えていた。新規就農者に対しては塚本

氏が直接指導し、実際に枝を切り1本の樹を仕上げていた。

今後とも、卓越した農業技術を地域の次世代農業者への伝承活動に取り組んでいく。



せん定のポイントを説明



「匠の技伝道師」によるせん定の実演

3. 令和4年度「農トレ！ひだか」 ～第3回セミナー開催～

2月27日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：岡 有輝氏）と日高地方農業改良普及推進協議会、当課との共催により、管内の青年農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第3回セミナーを開催した。今回は有田地方での開催となり、日高地方4Hクラブ員他新規就農者等合わせて計14名が参加した。

「農業経営・地域活動」をメインテーマに、湯浅町田地区で柑橘類等を栽培する新進気鋭の若手農業者で、「株式会社善兵衛」代表取締役の井上信太郎氏を講師に迎えた。事業承継後、自ら代表となり農園を法人化し、経営の効率化を図っているほか、SNSの積極的利活用による消費者、異業種、学生等垣根を超えた交流を通じた地域活動により地元の人を呼び込み、地域の活性化、地元製品のPRにつなげている。

会場は、井上氏らが中心となり、運営している同地区の交流スペース「FLAT」を利用した。会場はアットホームな雰囲気であり、参加者はいつものセミナーとは異なる新鮮な空間、講師の取組に刺激を受けていた。講演の後は、井上氏が整備したイベントスペース付きのほ場を見学した。参加者は将来の農業に思いを馳せながら、このほ場での取組や今後の活用法、夢について積極的に質問を行っていた。

その後、FLATに戻り、参加者同士で交流を行った。アンケート結果では、ほとんどの参加者が研修内容に満足しており、自身の農業経営や手法等に良い影響を与えうる内容で充実した研修であったとの声が多かった。また、地域活性化の取組みやSNSの活用についても参考にしたいとの声があった。

この研修により親睦が深まり、後日、御坊市4Hクラブ員のほ場に井上氏が大学生とともに訪れ交流を図った。今後も当課では、日高地方の農業に新たな風を吹かせるべく青年農業者や新規就農者の交流支援を積極的に行っていく。



FLATでの井上氏の講演



ほ場の現地見学



井上氏ほ場での集合写真



井上氏らと御坊市4Hクラブが交流

4. 将来へ前向きに・・・高校3年生へ花束を配布

2月28日、日高地方花き連合会（会長：假家 誠氏）は、それぞれの進路実現に向けて頑張っている生徒たちを応援したいとの思いで、管内の高校3年生の各クラスへ花束を贈った。

当活動にあたっては、管内の花き生産者からスターチスやカスミソウ、ガーベラ、スイートピーなど約1,000本が提供され、合計1,600本以上の切り花を用意した。それらを当会役員、理事および農業水産振興課員が花束に加工し、管内の高校5校の3年生（計21クラス）に今回の活動の趣旨を伝えるメッセージとともに届けた。また、希望のあった3校では贈呈式を行い、当会役員・理事が代表生徒へ手渡した。

花束を受け取った生徒や先生からは「きれいな花をいただきありがとうございます。ずっと見守られてきたんだなと感じました」「スターチスの色が紫以外にもたくさんあって驚きました。これから、色々なことに挑戦して自分の色を出せるように頑張りたいです」との感想があった。

当課では、今後も当会の活動を支援し、花き産地の更なる発展に取り組んでいく。



提供された花の一部



作成した花束



紀央館高等学校



日高高等学校



和歌山南陵高等学校

VI 西牟婁振興局

1. アグリビギナー等技術経営研修を開催

新規就農者や若手農業者の技術及び農業経営に関する資質向上を目的として、アグリビギナー等技術経営研修を2月10日及び27日の2回開催し、計18名が出席した。

第1回目は「果樹と野菜の複合経営」について、田辺市稲成町の谷口文治氏（指導農業士）を講師とし、教室風にした自身の倉庫において、果樹（うめ・みかん）＋野菜（いちご・キャベツ）の経営内容紹介及びいちごの栽培施設で、品種特性や管理のポイント等の説明を受けた。また、農作業事故防止のため、当課の木村技師より、乗用トラクターの安全使用について説明し、谷口氏にトラクターでの実演をお願いした。

第2回目は「果樹経営のポイント」について、田辺市上秋津の志波元昭氏（令和3年度県認定「匠の技 伝道師」）を講師とし、柑橘・うめの経営内容紹介及び温州みかんのせん定実習を行った。また、日本政策金融公庫から融資制度について、(株)ダイドーからせん定等の腕上げ作業用のアシストスーツについての説明も受けた。

参加者からは、「コストを下げるための施肥管理のポイントはなにか」「働きやすい園地や倉庫が重要だと思ったので、自分も取り組んでいきたい」などの質問や意見があった。

今後も当課では、リーダー育成に向けた資質向上と地域農業者との交流の機会として、本研修を実施していく。



谷口氏講演



志波氏実習（みかんのせん定）

2. 令和4年度西牟婁地方農山漁村女性の日のつどいを開催

2月17日、西牟婁地方農山漁村女性の日のつどいが亀の井ホテル紀伊田辺で開催され、会員および関係者44名が参加した。

本つどいは、西牟婁地方の女性グループ（農業士会女性部会、生活研究グループ、漁協女性部）が農山漁村女性のさらなる活躍促進を目的に、平成7年から「農山漁村

女性の日」である3月10日前後に開催している。今年度は、「地域の食を見直そう」をテーマに、地域産物を使った加工品づくりや販売等を行う女性起業グループの取組を学ぶとともに、参加者が互いに農水産物や加工品を持ち寄り交流した。

研修会では、いなみの料理広め隊代表の小田美津子氏から「印南町の郷土料理を広めたくて」、日高川町生活研究グループ美山支部の竿本千明氏から「イタドリで丸儲け」と題して、講話があった。

小田氏は、町内の女性7名でグループを結成し、義父に教えてもらった思い出の「かきまでご飯」を、印南町の郷土料理として次世代に伝えるため、レトルトパウチの「かきまでご飯の素」を商品化した。また、直売所やイベント等で販売を行い、消費者からは、ご飯に混ぜるだけで手軽に食べられて好評とのことであった。

竿本氏は、イタドリの漬物「ごんちゃん」がロングセラー商品であり、材料を確保するためにイタドリの栽培にも取り組んでいることや、ドレッシングや花のお茶などの新商品を開発し、「美山の贅」としてセット販売している事例を紹介した。

参加者からは、「商品の価格設定はどうしているのか」、「グループ員は全員農家の女性なのか」などの質問や「子や孫に郷土料理を伝えたい」、「新商品開発の取組はとても興味深かった」などの感想があった。

当課では、今後も農山漁村女性による地域の活性化の取組を支援していく。



研修会



持ち寄り販売による交流

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～いちごハダニ類の天敵防除実証ほ調査結果～

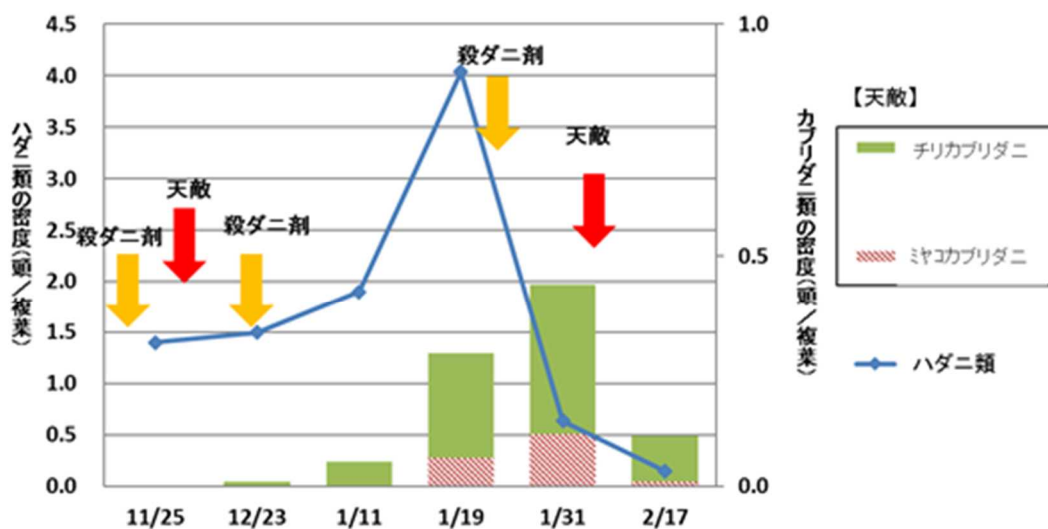
農業水産振興課は、いちごの天敵（チリカブリダニ等）を利用したハダニ類の防除実証ほを令和4年10月13日から設置している。

いちごの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬と天敵を併用した防除方法の導入が必要である。今回、その防除方法を実証した。

2月までの調査結果は、前半は殺ダニ剤の効果が低かったことと天敵があまり繁殖していなかったことでハダニ類の密度は高く、1月19日が著しかった。他方、1月31日以降は天敵の2回目施用も加わり、天敵が増加したのでハダニ類の密度が低下した。

園主からは、「重労働である農薬散布をできるだけ減らしたい。来年度も天敵を利用してハダニ類の発生を抑えたい」との声があった。

今後は、この実証ほの調査を3月上旬まで続け、結果を現地研修会などを通じて地域に普及を図っていく。また、天敵の散布回数を通常の2回から1回に減らせるかを検討する。



ハダニ類及び天敵の発生密度の推移

Ⅷ 農林大学校

1. 卒業論文発表会を開催

2月14日に卒論発表会を開催し、2年生の園芸学科12人とアグリビジネス学科2人の合計14人が2年間の調査研究の成果を発表した。

学生らが発表した内容は、いちごの栽培処理の果実への影響や、小ぎくの資材の違いによる品質比較、果樹加工品の利用法検討や商品開発、農村の課題解決に向けた調査など多岐にわたった。発表後は審査員長の和中華果樹試験場かき・もも研究所長らから質問が行われ、学生は時折言葉に詰まりながらも懸命に回答していた。

研究テーマの中には複数年にわたって研究を行うものもあり、今後は現在の1年生が来年の発表に向けて調査や研究を進めていく。



発表する学生

2. 令和4年度農学部卒業式

2月28日、卒業式を挙行し、小畑校長から2年生14名に卒業証書を授与するとともに、成績優秀者に対する表彰では、最優秀者に県知事賞が授与された。

本年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染症対策のための入場制限などの措置を行わず、3年ぶりに来賓のご臨席をいただくなど、通常の式典の姿を取り戻した。

小畑校長は式辞で、学生の2年間の成長を称えるとともに、「失敗を恐れず、常にチャレンジする姿勢を持ち続けて頂きたい」と激励した。

答辞では、園芸学科の下村梨乃さんが「新しく始まる人生の第一歩を、自信と情熱を持って踏み出していきたい」と、卒業生を代表して新たな門出にあたっての決意を述べた。

卒業生の進路は、県内での就農（雇用就農を含む）が半数を占め、次いで農業協同組合（2名）となっている。



卒業証書授与



答辞

Ⅷ 就農支援センター

1. 技術修得研修（第2班）の営農計画発表会／閉講式

2月3日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第2班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。

技術修得研修（第2班）は、10月から2月まで5カ月間（計25日）、果樹・野菜・花きなどの栽培管理、病虫害の防除、農業資材・機械の安全使用などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけた。

営農計画発表会では、修了生（8名）がそれぞれの将来目標（「和歌山の産物を世界へ」、「農業に絡めて様々な事業に展開していく」、「品質にこだわった農業」など）や抱負を発表し、意見交換を行った。

閉講式では、中谷所長から修了生全員に修了証書が手渡され、「ご苦労さまでした。農業をやるなかで困ったことがあればいつでも相談に来てください。」との言葉が贈られた。

今回、修了生8名のうち7名が就農予定である。



営農計画発表会



修了生へメッセージ

2. 令和4年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了

2月10日、就農支援センターでは、社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）の閉講式並びに営農計画発表会を行った。はじめに、閉講式では田辺産業技術専門学院の林学院長より、昨年5月から9カ月間の研修を修了した5名に修了証書が授与され、お祝いの言葉が贈られた。

続いて営農計画発表会では、修了生各自が研修中に作成した営農の将来目標と、それを実現するための5カ年の取組や抱負を語った。修了生からは、「農福連携での複合型事業展開」、「糖度・数値の見える化を意識した生産、販売」、「家族で続ける梅農家」等のテーマで発表があった。営農品目としては、果樹では温州みかん、うめ、野菜ではいちご、なす、はくさい、しょうがなどであった。

最後に就農支援センター中谷所長から、「講義や実習で学んだ知識と技術を生かし、

それぞれの将来の目標に向け、営農活動に励んでいただきたい」との言葉が贈られた。
今回、社会人課程修了生5人のうち4人が就農予定である。



修了生への修了証書授与



営農計画発表

3. 第3回UIターン就農相談フェアを開催しました

2月26日、和歌山県JAビル（和歌山市）で第3回UIターン就農相談フェアを開催した。

当日は、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、10団体の相談ブースを設け、県内外から相談者が参加した（県内12名、県外9名）。県内で就農を考えている相談者から、「就農に必要な準備について教えて欲しい」、「就農研修や各市町での農家研修について」、「補助金や農地について」などの質問が寄せられ、それぞれの質問に対応した。

また、相談フェアと同時に新規就農セミナーを開催した。過去に就農支援センターの研修を修了し、現在県内でぶどうを栽培されている方を講師に招き、「就農までの経緯」「就農して良かったこと・苦労したこと」などについて話しを聞いた。相談会全体を通じて、「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。



就農相談の様子



新規就農セミナー

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489